

平成 24 年 7 月 7 日

千葉木鶏クラブ

(328回 例会)

## 混迷の度合いを深める世界と迷走する日本

### ～宇宙船地球号のリニューアルに向けた騒動～

“政（まつりごと）は正なり”！ ギリシャに端を発した欧州債務危機がいよいよ世界に深刻な影響を及ぼす状況の中、対岸の火事を見物している最中に我が国は「消費税率改定」が決まりました。

何故なのか。この問題を中心に「堀切 健司」先生から「世界の激しい潮流のなかで迷走している日本丸」という視点から日本丸の行く末を語っていただき共に考えてみたいと思います。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

#### 記

1. 日 時 : 平成 24 年 7 月 21 (土)

PM 13 時 30 分 ~ 16 時 00 分

2. 場 所 : 北辰文化倶楽部 ☎0474-25-0220

<交通案内> JR 東船橋駅 徒歩 5 分 駐車場有り

[千葉木鶏クラブ事務局 丸島 忠夫 Email: marushima\\_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp)

[1/Fax:0475-25-121](tel:0475-25-121)

3. 会 費 : 1500 円 (従来より 500 円増しとさせて頂きました)

4. 講 師 : 堀切 健司 氏

#### <プロフィール>

生 誕 : 1957 年新潟県

学 歴 : 新潟県立新潟高校卒業、早稲田大学商学部卒業

職 歴 : 某商社勤務 経理全般を経験した後、貿易為替決済業務、資金運用業務に携わる

5. レジюме

タイトル: 混迷の度合いを深める世界と迷走する日本

副 題 : 宇宙船地球号のリニューアルに向けた騒動

#### (1) 世界史から見た日本

日本史の特徴として「聖徳太子の時代から外圧によって歴史が変わる」ことがよく言われます。今の日本を語る為にはやはり明治維新から現在まで海外の変化がどの様に日本に影響してきたのかを理解する必要があります。

##### ① 明治維新～第 2 次世界大戦 植民地時代

明治維新の革命はロスチャイルドにより先導されていた。そして日本側の意識は幕府もその後の明治新政府も列強のアジア植民地化政策に対する脅威を如何に排除するかにあった。

##### ② 戦後～ベルリンの壁崩壊 冷戦時代 (資本主義 VS 共産主義)

米国が共産圏と戦う間、戦争特需 (計 3 回) を受け、戦後の復興を遂げた。

##### ③ 1990 年以降 グローバル経済時代 (金融資本主義)

日本は、米国から「平和の配当」という名目の請求書を送りつけられ、配当金を払い続け現在に至る。欧米の戦略は植民地支配から金融による支配に変化。日本とドイツはまだ敗戦国の立場である。



## (2) 欧州債務危機の現状とこれから

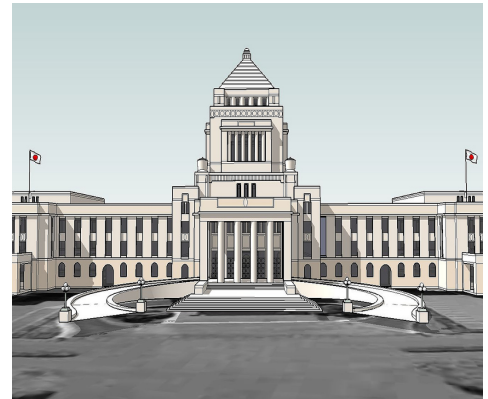
欧州問題はここ数カ月毎日の様に報道されていますが、日本のマスコミは何時ものことながら核心をつくところまでの内容になっていないことが残念です。



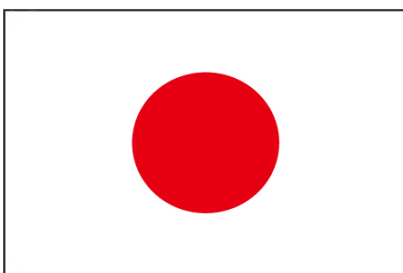
- ① ギリシャは既にゾンビ状態
  - ② 問題の焦点はスペイン。10兆円の銀行融資では不足。30~40兆円必要。
  - ③ キーマンはドイツ。
  - ④ 実は欧州より米国の方が重傷であるという事実。  
(財政の崖)
  - ⑤ 世界同時崩壊へ向けた序章が始まった。  
(みんなで落ちれば怖くない作戦)
- ⑥ 欧米の戦略：崩壊をギリギリまで伸ばし、
- i 日本と中国から富を移転させ、
  - ii 戦争経済に移行し需要を創出すること。

## (3) 今何故「消費税率改定」なのか

- ①日本売りのタイミングを計る欧米
- ②日本国債が消化できなくなる条件
  - i 経常収支の赤字：原発代替エネルギー輸入コスト増加と超円高による輸出不振
  - ii キャピタルフライト：日本人の貯蓄が海外へ逃避
- ③確信犯は財務省(勝栄二郎)と日銀
- ④補正予算(消費税対策)による財政出動と日銀による超金融緩和(超円高対策)で来年は日本で官製バブル発生の可能性



## (4) 「日本丸」の行く末



世界は確実に欧州債務危機の影響を受け、この危機は米国とブリックスを景気後退へ引き摺り込み、第二次リーマンショックへ向かう様相を呈して来ました。トリガー(銃とかスイッチとか...)を誰が引くかのタイミングかと思います。

一方、日本は足許地震特需で良好です。また目先消費税対策で財政出動の可能性が出て来ましたし、日銀の金融緩和も期待できます。また日本の金融機関も最近漸くバブルの不良債権を

償却し終わった様で健全性を取り戻しました。

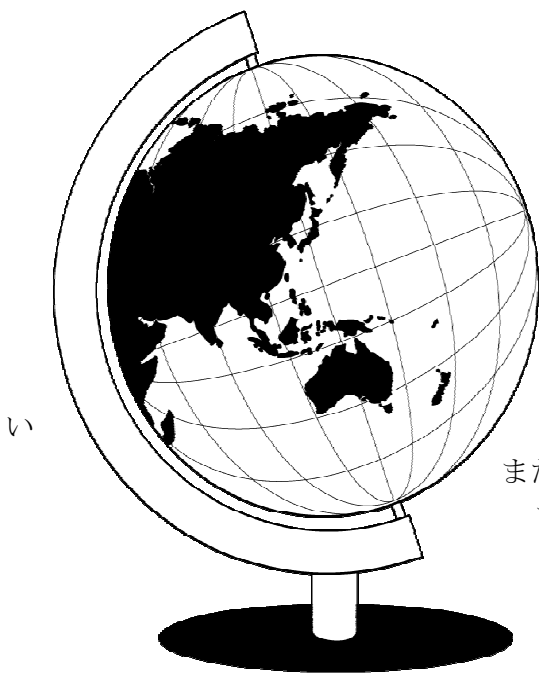
もう一つ、現在人口構成上、団塊ジュニアが中年にさしかかり住宅と教育費を一番消費する世代となっています。

今後2年間限定ですが、日本が世界で一番良い条件の国になる可能性があります。ですからこの2年という幸運な期間に国も企業も個人も各々最大限の努力をし、そして必ず日本丸の進むべき21世紀の航路を見つけ出したいものだと思う次第です。

### <内需拡大策への提案>

- ① エネルギー対策：先日佐渡沖南西 30 キロで世界最大級の油田が見つかったとの報道がありました。日本海側のメタンハイドレードと合わせて日本版エネルギー革命です。
- ② 大深度地下の有効利用：首都圏高速道路の地下化
- ③ 週休 3 日制の導入：雇用対策とレジャー費の増加
- ④ 首都移転：福島へ移転
- ⑤ 道州制の早期導入：東京一極集中は戦後の限られた人的・物的資源の有効活用の為に作られたシステムで、既に賞味期限切れ。

### (5) 21 世紀のテーマ：宇宙船地球号



「宇宙船地球号」という概念は米国人のバックミンスター・フラーが 1950 年代に提唱した概念です。

前回（本年 1 月）千葉木鶏クラブでは「ロハス」という概念を紹介しましたが、21 世紀の人類は「宇宙船地球号」に乗って「ロハス」な生活を送るといった感覚が重視されるように思います。

俳句と盆栽に宇宙を凝縮し、高度な循環型都市である「江戸」を創造し、そこで生きた私達の先輩の生活に似てるように思うのは私だけでしょうか。

また、フラーは「デザイン革命」を提唱しました。

まさに 21 世紀は地球規模のデザインを考える時に来ていると思います。

以上